



# 総合型選抜の学生を対象とした アスリートサポートプロジェクトの試行

スポーツイノベーション推進機構 スポーツパフォーマンス・コーチング部門

## 事業概要

本プロジェクトはスポーツイノベーション機構のスポーツパフォーマンス・コーチング部門が中心となり、すでに本学が進めているSHEEPプログラムに倣い、総合型選抜（以下、SSとする）で入学した学生を対象としたサポートプログラムを展開する。具体的には大きく2つの内容で進める。一つは国際大会で活躍するためのアスリートサポートである。本学が所有する各種の測定設備を用いた測定とそれらのデータを用いたフィードバック、さらに専門家によるアスリート教育を行う。具体的な測定は、モーションキャプチャやフォースプレートを用いた動作分析、高速度カメラを用いた動作記録、DXAを用いた身体組成測定、各種フィールドテストなどである。フィードバックにあたっては結果のみでなくその測定結果の持つ意義や測定の仕組み、各結果間の関連性などについての知識も提供する。この内容を実施するにあたっては、対象となる学生の部活動指導教員にも協力を仰ぐ。もう一つはアスリート教育である。スポーツ界のオピニオンリーダーとしての素養を養うことを目的に、上記のフィードバックや栄養学、心理学による競技力向上に向けてのスポーツ科学に関する知識の提供に加え、メディア対応、海外文化の理解、アスリートとしての社会貢献など、各分野の専門家による講義を行い、オピニオンリーダーとしての資質の向上を図る。

## 研究成果・実績



二重エネルギーX線吸収法  
(dual energy X-ray absorptiometry:  
DXA法)  
骨塩量や骨密度測定の原理を  
応用した方法  
2種類のX線を用い、それらが各組織を  
通過した際の減衰率から身体組成を  
算出する

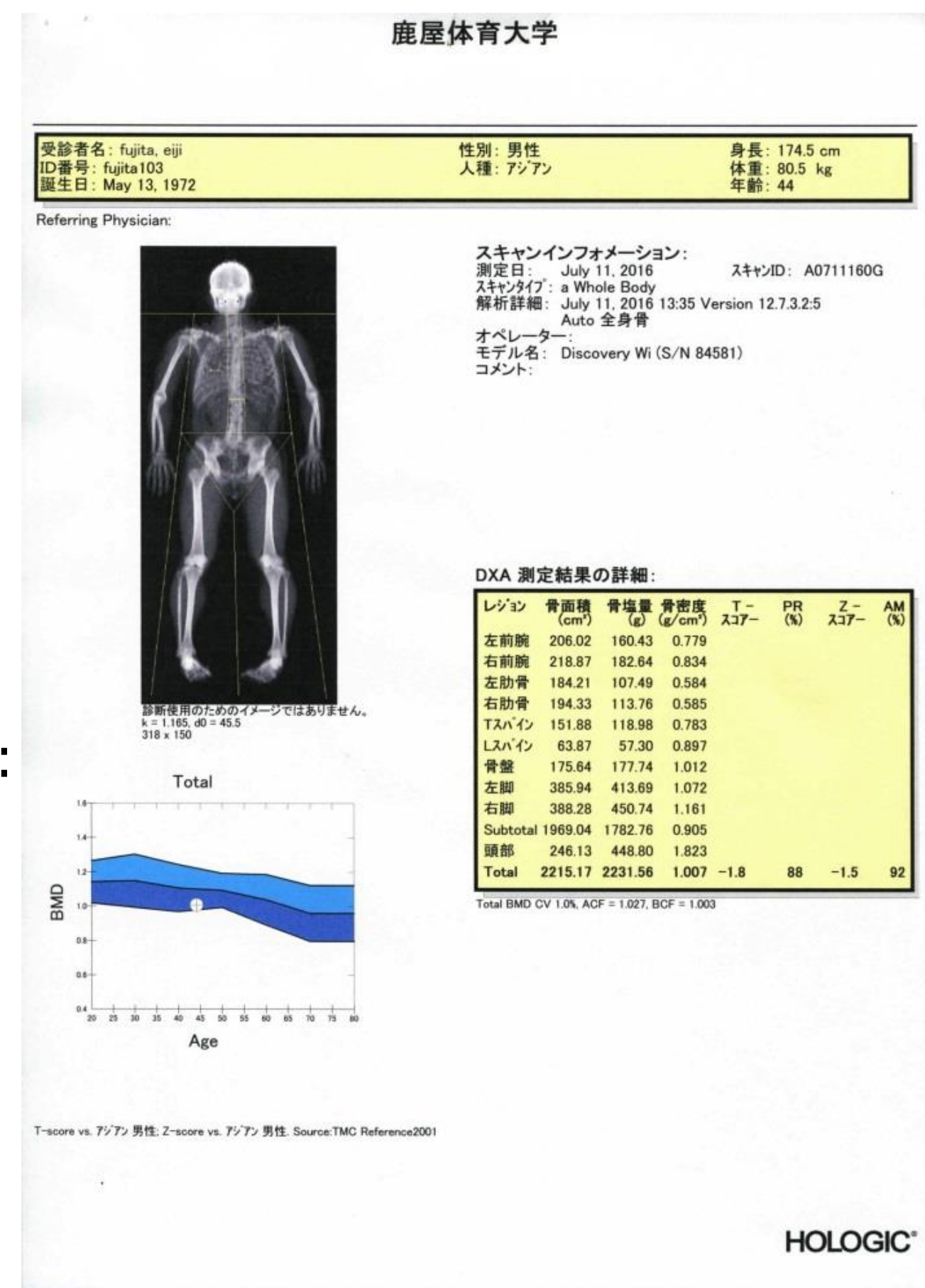


図1 DXA法による身体組成の測定



図2 ハイスピードカメラによる「剣道」の動作解析

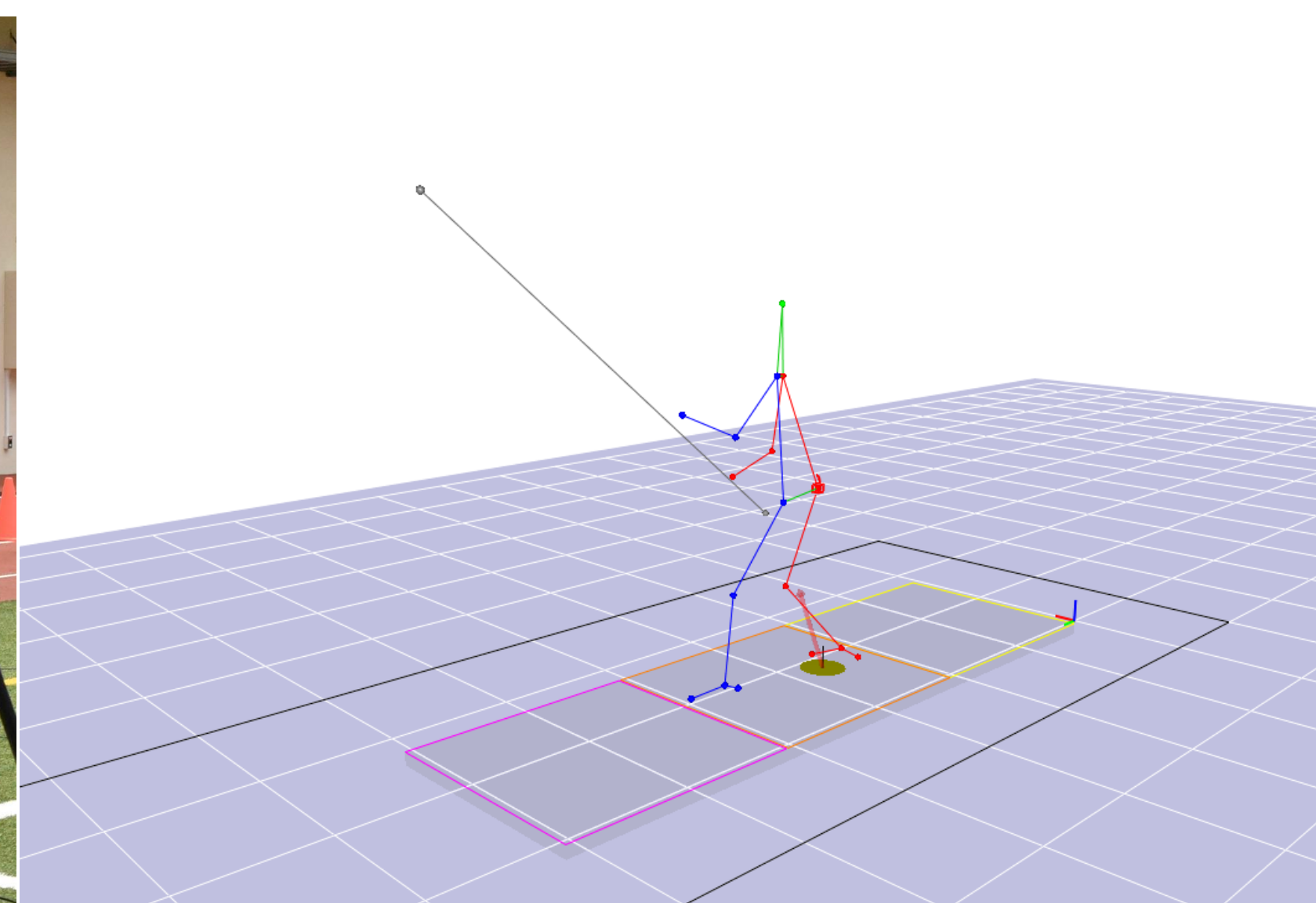


図3 モーションキャプチャーシステムによる「なぎなた」の動作解析

### アスリートサポートを受けた学生のコメント

- ・アスリートとしての身体の数値と今の自分の数値を理解することでトレーニングや食生活が変わるなど感じた
- ・自分の体の動きを細かく分析することができ、改善策も自ら考えてできたことがすごくよく、楽しかった
- ・動作を確認できたり数値を出すことによって足りない部分や強めていけないといけなことがわかり競技力向上に繋がるなど感じた
- ・自分のペダリング動作の余裕がある時と疲れた時で違いがあり、今後の競技力向上に活かすことができたと思った
- ・世界を戦った方の話を聞いて勉強になった。普段の考え方や競技に対する考え方など参考になることばかりだった
- ・自分の武器を作ることが大事だと思った
- ・実際のオリンピックの話聞いて、自分の長所を生かして、これからも競技を続けていきたいと思った



図4 女子バレーボールで日本代表経験を持つ卒業生の内瀬戸真実氏との懇談会の様子

## 今後の事業の展望

令和5年度は事業開始当初に予定していた事業を概ね実施することができた。一方で学生の参加度合いには個人差も大きく、できるだけ多くの学生に参加してもらうような働きかけや内容の精査も必要であると思われる。また令和6年度も事業の継続を計画しており、令和5年度入学の新2年生及び令和6年度入学の新1年生を対象とし、令和5年度に行なった事業を継続するとともに、その回数を少しでも増やすことを計画している。加えて学生からのフィードバックを得ることや類似した他の事業との共同実施、本事業の評価方法についても検討しながら事業を継続していきたい。